

これからの生涯学習・社会教育に求められるもの

令和7年1月

笹井宏益

生涯学習時代の3つの学びのスタイル

一人で学ぶ

- ・ 読書など自学自習をする
- ・ インターネットなどメディアを活用して学ぶ
- ・ (ボランティアの実践も含めて) 経験から学ぶ

仲間とともに学ぶ

- ・ 対話をとおして学ぶ(相手を受容することも含めて)
- ・ 議論をとおして学ぶ(情報発信することも含めて)
- ・ とともに実践することをとおして学ぶ(ともに創ることも含めて)

教師や講師から指導してもらう

- ・ 新たな情報(知識・知恵)やスキルを得る・身につける
- ・ 新たな経験を積む場や機会を得る
- ・ 望ましいコンピテンシーについて指導してもらう

社会教育の本質的特徴



相手（仲間）がいて初めて成り立つ活動

相手との関わり合いによりお互いが成長する活動

知識を得たり気づきを得たり自分で価値を創ったりする活動

課題と解決プロセスの共有が相手とつながるための接着剤

社会参加から社会教育実践までのプロセス

1) 他者と接する(例 カフェなどで新聞を読む)

2) 他者と対話する(例 気軽におしゃべりをする)

3) 他者と情報を共有する(例 共通の課題を見つける)

4) 他者と関わり合う(例 課題を共有し議論をする)

5) 他者とともに実践する(例 課題を共有し作業をする)

前記プロセスに対応する条件整備

2) 対話

- ・ 自らの心を解放できるような「場」をつくる
- ・ 気軽に相談に乗ってくれるカウンセラーなどがあるようにする

3) 情報共有

- ・ 情報交流が起こるような「場」をつくる
- ・ 市民や団体が交流する機会をつくる

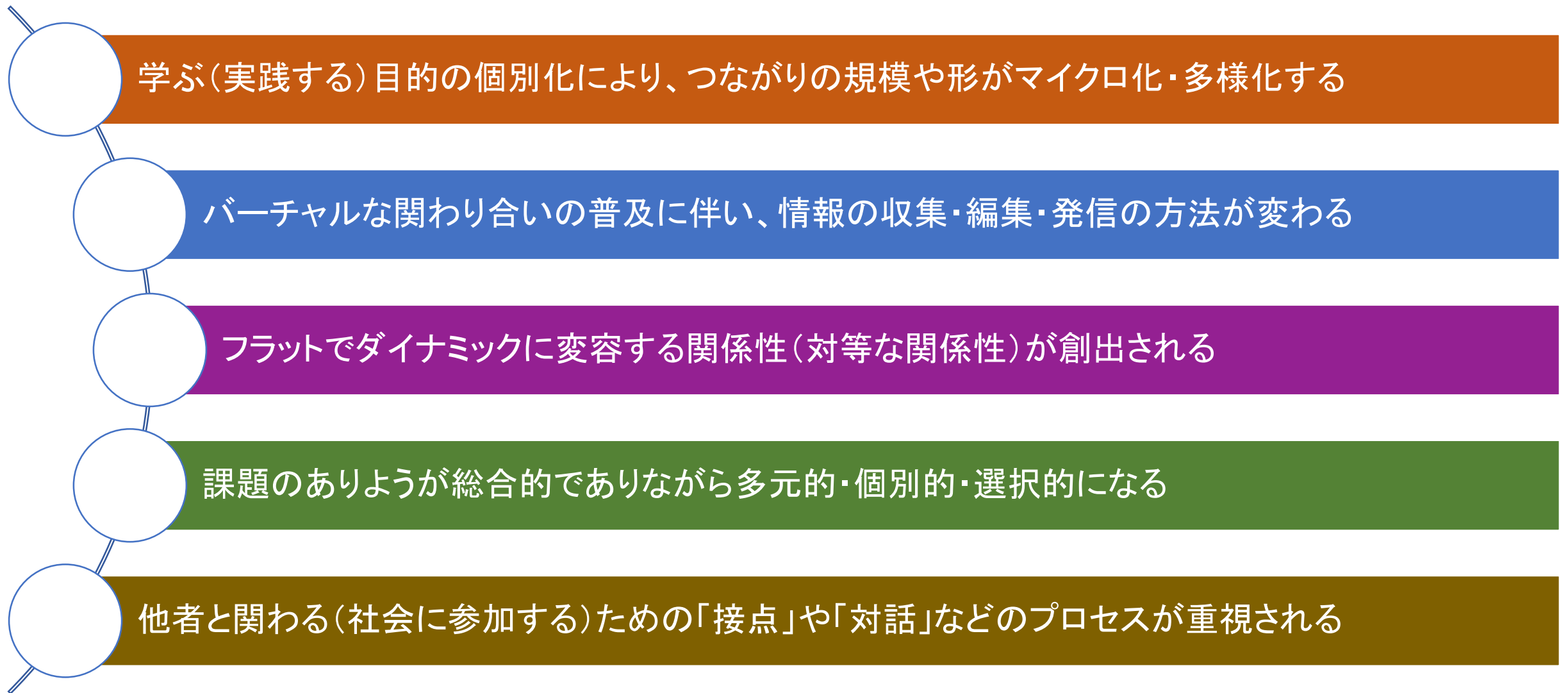
4) 議論

- ・ 特定多数または不特定多数の人が集まれる「場」をつくる
- ・ 参加者が対等な関係性のもとに議論できるような仕掛けをする

5) 実践

- ・ 参加者が対等な関係性のもとに実践できるような仕掛けをする
- ・ 参加者の実践が持続できるような仕掛けをする

社会教育は今後どのように変わるか



学ぶ(実践する)目的の個別化により、つながりの規模や形がマイクロ化・多様化する

バーチャルな関わり合いの普及に伴い、情報の収集・編集・発信の方法が変わる

フラットでダイナミックに変容する関係性(対等な関係性)が創出される

課題のありようが総合的でありながら多元的・個別的・選択的になる

他者と関わる(社会に参加する)ための「接点」や「対話」などのプロセスが重視される